

農業大県いばらきの強化

～次なる農業形態を求めて 植物工場編～



そもそも、なぜ「農業大県」なのか？

| 区分 | 全国の順位 | | |
|--------|-------|-----|-----|
| | 第1位 | 第2位 | 第3位 |
| 農業就業人口 | 茨城県 | 北海道 | 福島県 |
| 耕地面積 | 北海道 | 茨城県 | 新潟県 |
| 生産農業所得 | 北海道 | 茨城県 | 千葉県 |

資料：茨城県の農林水産業の概要（H25.7）

茨城県は、他県に比べ…

- 農業従事者が多い
- 農地が広い
- 農業で稼いでいる



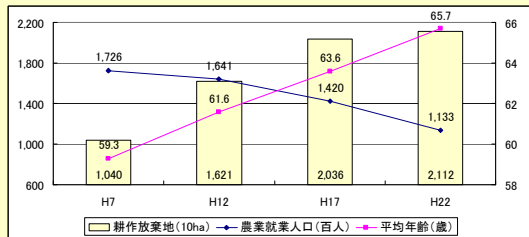
農業大県

「農業大県いばらき」は磐石なのか？

農業従事者が多い
農地が広い



年々減少し、高齢化も進行
耕作放棄地は、15年で2倍超



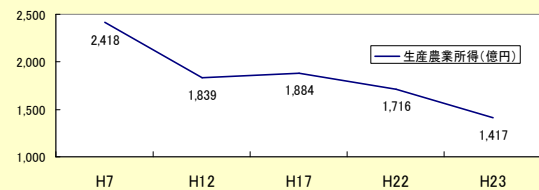
資料：茨城県の農林水産業の概要（H25.7）

「農業大県いばらき」は磐石なのか？

農業で稼いでいる



減少傾向
平成23年は昭和48年以降最低に



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

「農業大県」の確立に向けた課題

| | プラス要因 | マイナス要因 |
|-----|---------|------------------|
| 供給側 | | 担い手の減少 TPPの参加 |
| 需要側 | 国産志向の上昇 | 風評被害 |

TPP加入による県内農産物の 生産額減少の見込み一例



米・・・469億円(49%)減

肉(牛, 豚, 鶏)



・・・416億円(70%)減



乳製品・・・151億円(100%)減

全体で1,113億円減少

「農業大県」を確立するためには

「NO農業産出額低下&儲かる農業」

- ①就農者支援 ← 様々な施策あり
- ②大規模農業化 ← 政府の方針
- ③植物工場などの新たな産業
- ④品種改良 ← 従前の方法
- etc...

7

植物工場に着目

- ①科学技術の活用
← 茨城にはつくばあり
- ②東京近郊
← 大消費地の大生産地
- ③葉物野菜(園芸作物)の生産が盛ん
- ④植物工場を積極的に推進する自治体が少ない。
← 独自性のアピール

8

植物工場ってなに？

完全人工光型



閉鎖空間の中で人工光を使用し、温度、湿度等を制御しながら栽培
・環境は制御し易いが設備コスト、ランニングコストが高い
・遊休工場建屋等の利用が可能

OR

太陽光・人工光併用型



太陽光が入るガラス等の温室内で温度、湿度等を制御しながら栽培
・太陽光を利用するため完全人工光型に比べランニングコストは低い
・太陽光利用で半日〜1日程度の製品を生産可能

写真の出典: JFEライフ株式会社 パンフレットより

9

現地視察(1/2)



ハウス内の全景



写真の出典: JFEライフ株式会社 パンフレットより

10

現地視察(2/2)

栽培工程





こんな流れで私たちの食卓に並びます。

写真の出典: JFEライフ株式会社 パンフレットより

11

植物工場ってどうなの？

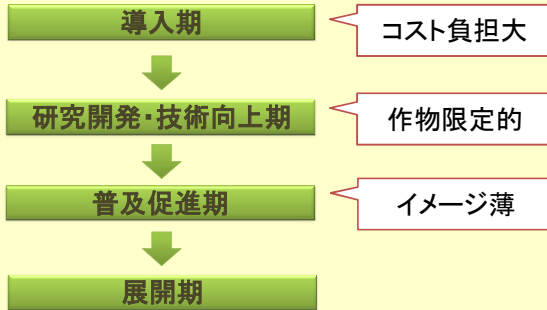
メリット

デメリット

| | | 工場に行ったら分かったこと | | | |
|------|--------------|---------------|-----|------|---|
| | | S | プラス | マイナス | W |
| 内部要因 | 安定供給 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| | 価格 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| | 量 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| | 品質 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| | 無農薬 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| | 比較的土地を選ばない | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 外部要因 | 大消費地に近い | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| | 原産問題の影響薄 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| | 天候に左右されない | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| | 病害虫の影響を受けにくい | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| | | O | | | T |

12

設置推進のステップ



13

設置推進のために



14

まとめ

植物工場の設置推進による効果

- 法人等の農業参入が容易に
- 生産量を確保⇒儲かる農業の実現へ
- 技術先導型の農業⇒いばらき農業のPR

いばらき農業の競争力UP!

15